

研究の進め方・論文の書き方

早稲田大学
政治経済学部
須賀晃一

勉強？研究？

- 勉強と研究は違う
 - 勉強：考え方を学ぶ
基礎知識を身につける
 - 研究：自分で問題を見つけ自分で答えを出す
- 勉強の上に研究がある
 - よりよい研究をするための勉強
- 勉強だけではダメ
 - 目的のない勉強はナンセンス

研究を重視しよう！

- 問題の発見
 - 自分だけの問題を見つける
- 解決法の発明・開発
 - 自分だけの答えを導く
- 研究活動とは
 - 自分の問題に自分で答えを出す作業
 - 論理性・説得力がすべて
 - オリジナリティが評価基準

勉強と研究の相互作用

- ものの見方・考え方を学ぶ
 - それぞれの学問に特有の見方・考え方
 - 先人の知恵の結晶
 - 現代の学問研究の集積
- それで何が説明できるか
 - 身の回りの現象に当てはめる
 - すべてがうまく説明できるか？
 - 新しい問題の発見
- 研究の始まり

考え方・ものの見方の中身

- 論理性 説明力
 - 無矛盾性
 - 論理の一貫性
 - 反証可能性
 - 追試, 実験による検証
 - 証拠によって覆すことが可能
 - 測定(数量化)可能性
 - 厳密性

説明力が理論の良し悪しを決める

- **説明力・説得力**
 - **権威・権力による説得(上下の力関係)**
 - 親の子に対する説得(説諭)
 - 上司の部下に対する説得
 - **贈賄による説得(同等の力関係)**
 - 企業の政治家に対する説得(政治献金)
 - A党のB党に対する説得(票の売買)
 - **論理による説得**
 - 研究者の同業者に対する説得
 - 教員の学生に対する説得(?)
 - **感情による説得**
 - 相手の権威・権力にすぎる, 共感してもらう

- 特定の相手との話し合い
 - 論理よりも感情？
- 不特定多数の相手に対して
 - 論理のみ
- どんな論理が必要か？
 - 学問ごとに異なる
 - 学問の習得・適用
- 社会科学の方法

なぜ道具が必要か？

- **社会科学の研究対象**
 - 社会とは何か？
 - 政治とは何か？ 経済とは何か？
 - 物質のように、触って分かる、見て分かるなど、五感で分かるようなものではない
 - 第六感が必要？
- **見えないものを見るための仕掛けが必要**
 - 理解し説明するための仕組みに変換

理論とは

- 見えないものを見るための仕掛けの集まり
- 見えないものを理解する仕組みの体系
- 理解したものを他者に伝える言語の体系
- 説明の体系

- 論理性がすべて
 - 真実のエキス？ ウソの塊？

研究の流れ・論文の流れをつくる

テーマを選んだ動機・問題意識を鮮明にする。

自分なりの結論・主張を明確にする。

とりあえずの結論は何か？

結論の正しさはどうすれば主張できるか？

結論を導くための手法・技法(モデル)を決める。

資料を収集し、必要な分析を加える。

各章・各節の暫定的結論の関連を考える。

論文全体の結論を導く。

全体の連関を示すフローチャートの作成

研究の流れ

既存の理論・結論

現実の問題(事例)

あなたなりの疑問・反発

反証例の探索

調査・検証・証明

反例・命題・主張

論文の作成

自己の主張の正しさを表現する

論文の流れ

序論：問題意識，全体構成

自分の結論の意義

これまでの成果・帰結との比較

本論：分析方法（理論モデル）

数理モデル・計量モデル・言語モデル

前提条件・仮定

論理展開 調査・検証・証明

反例・命題・主張

結論：研究成果のまとめ

論文の作成

- ・ 研究は論文作成に先行する。
- ・ 自分の結論が見えないまま論文執筆を始めるとすぐに困難に直面する。
- ・ まず、一応の研究を終わらせる。
- ・ 個別問題のそれぞれに自分なりの解答を与える。
- ・ その後、論文作成の作業に入る。

全体構成の練り方

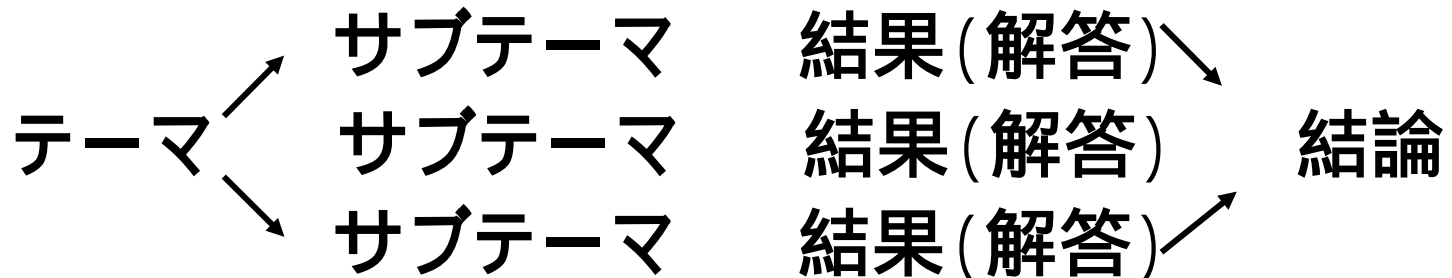
テーマ全体の問題意識を明確にする

なぜ自分の設定したテーマが重要なのか
なぜいまそのテーマを扱うのか

全体の結論を明確にする

自分の導いた結論は何か
結論の一般性はどの程度か

最適な論理展開の方法を考える



章の立て方

個別問題群(サブテーマ群)をグルーピングする
キーワード集を作ろう!

各グループの問題を定式化し結果を示す

問題から結果までの論理展開を明示する

各グループを1つの章として章題をつける

各章をいくつかの節に分割する

必要があれば各節をさらにいくつかの項に分割する